

由布院温泉

(大分県由布市)

注目ポイント！

- まちづくり100年を目指す持続発展可能な観光まちづくり。
- 住民とリピーターが交流できる新たな生活型観光地づくり。



名もなき温泉地が年間約380万人の観光客が来るまちに！



由布岳

コラム

組合長は、由布院温泉のボランティアガイドとしても活躍しており、生活ゾーンや田園地帯を案内するコースは好評である。また、旅館組合青年部では由布院温泉の景観保全のため、定期的に河川清掃活動や種蒔きを実施。「ゆふいんかぐや姫募金」として、旅館等に募金箱を設置し活動資金を募っている。



由布院温泉旅館組合長 麻生 洋一氏

これまでの経緯

- | | |
|-------------|---------------------------------------|
| 昭和50年(1975) | 大分中部地震の風評被害を克服するため、観光辻馬車、ゆふいん音楽祭を始める。 |
| 昭和52年(1977) | この町にこどもは残るかシンポジウム開催。 |
| 平成2年(1990) | 「潤いのある町づくり条例」制定。 |
| 平成9年(1997) | ゆふいん料理研究会が発足。 |
| 平成14年(2002) | 車を中心部に入れないための交通社会実験を実施。 |
| 平成17年(2005) | NHK連続テレビ小説「風のハルカ」の舞台となる。 |
| 平成17年(2005) | 湯布院町と挾間町、庄内町が合併し由布市が誕生。 |

主な取り組み

ゆふいん料理研究会の取り組み

旅館の料理長が中心となり、「自分の旅館だけが悪くてもだめ、由布院全体がレベルアップを」との思いにより発足。料理を研究するだけでなく、地域との繋がりを持ち、さらに腕を磨くため、湯布院映画祭などの各種イベントに参加し地域とのふれあいを深めている。また、地産地消の考えを広め地元農家との繋がりを強めネットワークの力を料理に発揮している。



研究会参加イベント(こどもメン喰い絶叫大会)

ゆふいん情報発信運動

地震の風評被害を克服する策として、観光PRのため走り出した観光辻馬車も今年で32回目を迎えた。このようにマスコミのPR力を活用する「情報発信運動」を展開、さらに住民組織の実行委員会による「ゆふいん音楽祭」「牛喰い絶叫大会」「湯布院映画祭」をスタートした。これらのイベントは由布院を一躍全国レベルの知名度を持つ町へと引き上げた。



観光辻馬車

歩いて楽しいまちづくりのために

2002年に交通社会実験を旧湯布院町で行なった。これは由布院盆地中心部に車の乗り入れ規制するとともに、歩いて楽しいまちづくりを提案した。また、この実験には延べ1,400名以上のボランティアの参加も得た。



歩行者天国になった湯の坪道

地場流通と異業種連携の試み

由布院温泉観光協会と旅館組合の共同事業として、親類クラブ委員会ではゆふいん流グリーンツーリズムを提唱し、多くのチームと連携して料理や物産の開発も手がけている。農業・商業・観光等の異業種が連携できる地域づくりネットワークと流通システムを目指している。



スローフードマーケット

問い合わせ先

○ 由布院観光総合事務所

Tel : 0977 - 85 - 4464 <http://www.yufuin.gr.jp>